

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	インターネット概論 (Introduction to Internet) 391063-14700					担当教員	坂井 一貴 (サカイ カズタカ)		
科目区分	専門科目	必修・選択区分	選択	単位数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

インターネットの定義、仕組み、主たるサービス、各種語句などの知識を修得し、現状のインターネット環境について具体的に説明できることを第一の目的とする。

また、インターネットを利用した商取引、経済活動が新たに多数提供されているが、それらの仕組みを理解し、説明できること、さらに今後インターネットを活用した経済活動がどのように展開されていくかを予測できることを第二の目的とする。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

職業人として通用する能力／専門的知識・技を活用する能力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

総務省「情報通信白書」を中心に必要な知識・理解については講義形式で進めていく。また、理解を深めるために指定テーマを調べ、まとめる、理解を共有するグループワークも数回行う。

一方で、授業内容に関する身近な事例等については事前学修で予め調べ把握し、事後学修で授業内容を振り返り、理解不足部分を補い、関連する事柄等をまとめ体系的な理解となるように努めること。また、授業に関する事例が多く紹介されるBSテレ東の経済番組を日々見ることも推奨する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

前提科目：「ネットワークリテラシー」を履修し単位修得しておくこと。

または、それと同等以上の知識・技術を有していること。

⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安

- (i) インターネットの定義と主たるサービスを専門的な語句を用いて他者に具体的に説明できる。
- (ii) インターネットを利用した経済活動の仕組みについて、そのビジネスモデルを他者に具体的に説明できる。
- (iii) これまでの情報通信技術やそれらを利用した経済活動の変化を踏まえて、インターネットに関連する周辺分野について5年から10年後の将来を予測することができる。

⑥ テキスト（教科書）

インターネット上のPDF資料 総務省「情報通信白書」平成27年版～令和3年版
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/index.html>

⑦ 参考図書・指定図書

各種事例に応じて、該当するWebページ等も併せて紹介する。

⑧ ルーブリック

評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) インターネットの定義等を専門的な語句を用いて他者に説明できる	Aの基準に加え、他者からのそれらに関する質問に適切に回答し相手に理解させることができる	インターネットの定義と主たるサービスを専門的な語句を用いて具体的に説明できる	インターネットの定義と主たるサービスを専門的な語句を用いて説明できる	インターネットの定義と主たるサービスを抽象的ではあるが説明できる	インターネットの定義と主たるサービスを説明できない
(ii) インターネットを利用した経済活動の仕組み、ビジネスモデルを他者に具体的に説明できる	Aの基準に加え、他者からのそれらに関する質問に適切に回答し相手に理解させることができる	インターネットを利用した経済活動の仕組みについて、そのビジネスモデルを具体的に説明できる	インターネットを利用した経済活動の仕組みについて、そのビジネスモデルを抽象的ではあるが説明できる	インターネットを利用した経済活動の仕組みについて、そのビジネスモデルを複数個列挙できる	インターネットを利用した経済活動の仕組みについて、そのビジネスモデルを説明できない
(iii) インターネットに関連する周辺分野について5年から10年後の将来を予測することができる	Aの基準に加え、自らの予測に則り必要な知識や技能を修得し将来に備えた準備行動を取ることができる	現状分析を基に、インターネットに関連する周辺分野の5年から10年後の将来を自ら考え予測することができる	Cの基準に加え、情報収集した事柄が具体的にどのような事柄かを理解した上で説明することができる	現状分析を基に、インターネットに関連する周辺分野の5年から10年後の将来予測の情報収集をすることができる	現状分析を基に、インターネットに関連する周辺分野の5年から10年後の将来予測の情報収集できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合		20%		80%				100%
(i) 定義の説明		20%						20%
(ii) ビジネスマodelの説明				30%				30%
(iii) 将来を予測する思考力				50%				50%
フィードバックの方法	小テストは採点後返却、解答例を示す。 レポートは全体に対して総評・コメントをする。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

履修者は、ニュースソースが脆弱で情報収集能力が高くないことから、身近な事象を多く提示した授業を行う。さらに自ら調べ他者と理解を共有するグループワークにより理解度の向上をめざす。

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	授業の進め方の説明とインターネットの定義	前提科目「ネットワーク リテラシー」を復習しインターネットの定義を再確認する。 「情報通信白書」を一読し、不明瞭な語句等を調べ理解する。	180 分
2	インターネットを用いた商取引について	「情報通信白書」の該当部分を調べ・理解する。 自分自身の身近な電子商取引等の事例をピックアップしておく。	180 分
3	インターネット・SNSを活用した特徴的なビジネスについて	インターネットだからこそ売れる商品や、SNSを効果的に活用したビジネス手法等を調べ、複数ピックアップしておく。	180 分
4	インターネットを用いた商取引とその影響について	インターネット商取引に伴う既存の百貨店、スーパー、ドラッグストア等小売事業者への影響と、将来変化を予測しまとめる。	180 分
5	最近の情報通信・技術に関する事例 (FinTech, EdTech, MedTech, x-Tech, AI, IoT, RPA, BigdataSharing Economy, Blockchain)	左の語句に関して「情報通信白書」の該当部分を調べ・理解する。 左記に関して自分自身の身近な事例をピックアップしておく。	180 分
6	FinTechについて 国内のFinTech状況と海外との比較	「情報通信白書」の該当部分を調べ・理解する。 自分自身、または周囲で利用されてFinTech事例をピックアップ。	180 分
7	FinTechのビジネスモデルについて Banking is necessary. Banks are not.	既存の金融事業者のビジネスモデルと、FinTech事業者のビジネスモデルを調べ、まとめておく。 右の言葉は誰がいつ言ったのか、またその意図を確認する。	180 分
8	FinTech事業における通信キャリアの親和性とメガテック企業の動向	通信キャリアがFinTech事業へ挙って参入する理由を考える。 メガテック企業の動向を調べる。	180 分
9	FinTechの浸透状況とFinTech企業の動向から今後の行く末を考える	今後、FinTechによって世の中がどのように変化するか自らの考えをまとめる。	180 分

		また、その変化によって、自らどのような能力を高め対応すべきかを考える。	
10	シェアリング・エコノミーについて (Uber, airbnb, Timee, Akipa, Rakusuru, nutte, airCloset 等)	「情報通信白書」の該当部分を調べ・理解する。自分自身、または周囲で利用されて事例をピックアップする。	180 分
11	シェアリング・エコノミーとサブスクリプション、リカーリングについて	シェアエコをはじめとする左のようなビジネス形態の事例をピックアップし、なぜこれらが増加してきたのか理由を考える	180 分
12	シェアリング・エコノミー等による未来の変化を考える	シェアエコ等により既存の事業者への影響を考えまとめる。 また、各事業者がどのようにビジネスモデルを変化させるべきかを考えまとめる。	180 分
13	情報通信技術、RPA、AI の進展に伴う仕事・働き方の変化について	AI 等の進展による消える仕事、残る仕事について調べ、その特徴をまとめる。 AI や RPA が得意なこと、不得意なことを考えまとめる。	180 分
14	情報通信技術、RPA、AI の進展に伴う求められる能力の変化について	技術進化に伴い、これまで必要とされてきた能力と、今後必要とされる能力の違いを予測しまくる。	180 分
15	AI、ビッグデータ、IoT 等が進展した高度情報社会で生きていくこと	10 年後はこれまでの 10 年とは全く違った社会になる可能性があるとき、今どのような知識や技能を身に付け、能力を高めるべきかを考えまとめる。	180 分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL および協同学修型 AL を採用する。

事前学修のために提示した課題の内容を踏まえ授業を展開し、授業中に事前に学修した内容について、学生同士ペアやグループになって情報を共有し、さらに理解を深めることによって知識の定着・確認をする。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性